

年頭所感（週刊ケイザイ防長）

日本銀行下関支店長 重本 浩志

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

旧年中は日本銀行下関支店の業務に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の山口県経済は、コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、景気は持ち直しました。生産は、海外経済減速の影響はあるものの、部品不足などの問題が解消へ向かい、増産へ向けた動きも出てきました。消費は、物価上昇を受けて、低価格帯商品へのシフトなど、生活防衛的な動きもみられましたが、コロナ禍で抑えられていた需要が出てきたことから、持ち直しの動きを続けました。販売価格を引き上げる企業は着実に増加し、収益の改善見込みを背景に、設備投資は積極化しました。

2024年の山口県経済は、こうした企業部門の改善が、家計部門における好循環～所得から支出へ～に繋がっていくかが一つの焦点となります。消費をサポートするに足る賃金上昇が実現するのか、賃金引上げを視野に入れた企業の価格設定が広がるか、注視してまいりたいと思います。また、人手不足や脱炭素化といった大きな課題に対し、自らの置かれた状況を見極めながら、本腰を入れて粘り強くチャレンジしていくことも重要です。

今年7月には、お札（日本銀行券）のデザインが新しくなります。たとえば一万円札は渋沢栄一さんの肖像になり、数字が大きくなって見やすくなります。精細なすかしや3Dホログラムなど、世界で初めてとなる技術も用いられますので、発行を楽しみにしててください。

高い先見性や技術力を持つ山口県の企業が、それをサポートする行政・金融機関とチームワークよく連携する形で、本年も山口県経済が更に発展し、皆様にとって実り多い1年となることを心より祈っております。